

東海第二発電所 原子炉圧力容器下部制御棒駆動機構フランジ からの漏水の停止について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉、定格電気出力110万キロワット）は、第25回定期検査中のところ、10月26日10時20分「格納容器機器ドレンサンプ高」警報が発報し、使用済燃料プールスキマーサージタンク*¹の水位低下を確認しました。このため、作業状況を確認したところ、制御棒駆動機構の復旧のために制御棒駆動機構ハウジングの閉止板の取り外し作業を実施しており、閉止板の1つでパッキンが緩んで冷却水が漏れていることを確認しました。漏水は現在も続いています。

なお、使用済燃料プールへは水張り操作を実施しており、スキマーサージタンクの水位は回復しております。

また、使用済燃料プール冷却系の運転は継続しており、燃料の冷却には問題がないことを確認しております。

当該作業に従事した者の身体表面汚染及び内部被ばくのないことを確認しました。

（平成23年10月26日お知らせ済）

その後、12時55分に当該箇所にて制御棒を着座させ、漏えい量が少なくなったことから、漏えいした閉止板の締め直しを行い、14時14分に漏えいは止まりました。

この間の漏えい量は約22.4 m³、放射エネルギーは880万ベクレル*²でした。漏れた冷却水は液体廃棄物処理系等に回収しました。

今後、発生原因等について詳細に調査してまいります。

なお、本事象による環境への影響はありません。

* 1 スキマーサージタンク：使用済燃料プール水を浄化するための系統のタンク

* 2 880万ベクレル：3ヶ月あたりの放出管理目標値の約2000分の1

添付資料：原子炉およびプール浄化系全体概略図

以上

原子炉およびプール浄化系全体概略

添付資料

原子炉建屋

